



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 フランスベッドホールディングス株式会社
 コード番号 7840 URL <https://www.francebed-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 池田 茂
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理／総務グループ担当 (氏名) 長田 明彦 TEL 03-6741-5501
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	42,758	7.9	3,201	6.8	3,212	6.0	2,026	△0.6
2022年3月期第3四半期	39,602	4.4	2,995	27.9	3,028	19.3	2,039	19.3

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,664百万円 (△1.6%) 2022年3月期第3四半期 1,691百万円 (16.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	56.05	—
2022年3月期第3四半期	55.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	63,806	37,591	58.9	1,043.61
2022年3月期	64,298	37,540	58.3	1,030.11

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 37,591百万円 2022年3月期 37,540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	15.00	—	18.00	33.00
2023年3月期	—	16.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	17.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,500	5.7	4,200	7.1	4,180	5.5	2,650	3.6	72.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	41,397,500株	2022年3月期	41,397,500株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	5,377,299株	2022年3月期	4,954,623株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	36,155,350株	2022年3月期3Q	37,014,615株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（以下「当期」という。）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症への各種政策の効果もあり、社会経済活動の正常化が進んだ一方、長期化するウクライナ情勢や急激な円安の進行によるエネルギーや原材料価格の高騰など、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する介護業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でも、在宅介護需要の伸びは継続して推移した一方、家具・インテリア業界においては、生活必需品を中心とした物価上昇等を受けて、耐久消費財への消費マインドは低下が続きました。

このような状況の中、当社グループでは、2021年4月にスタートさせた中期経営計画において、グループで保有する経営資源をシルバービジネスに集中することで、新しい商品やサービスを通じて、介護人材の不足や老老介護の増加などの社会全体で抱える課題の解決を図っております。また、持続可能な社会の実現に向けたESG経営を推進していくことにより、企業価値の更なる向上を目指しております。主な施策としては、①福祉用具貸与事業への経営資源集中による事業拡大（メディカルサービス事業）、②時代のニーズに合った商品展開による利益率の向上（インテリア健康事業）、③継続的な企業成長を支える経営基盤の強化、に取り組んでおります。

当期におきましては、メディカルサービス事業は、主力の福祉用具貸与事業が堅調に推移したことや前期のM&Aによる増収効果に加え、インテリア健康事業においても、電動ベッドや健康機器等の高価格帯商品が好調に推移した結果、当社グループの経営成績は、売上高は42,758百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。

利益面では、増収に加え、原材料価格等の高騰への対応として、2022年4月と10月に製品販売価格の値上げを実施したことなどにより、営業利益は3,201百万円（前年同四半期比6.8%増）、経常利益は3,212百万円（前年同四半期比6.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,026百万円（前年同四半期比0.6%減）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

① メディカルサービス事業

主力の福祉用具貸与事業においては、継続して営業員及びメンテナンス人員を増強するとともに、今後の東京都の高齢者人口の増加に伴う、福祉用具や医療機器への需要拡大に対応するため、2022年5月、福祉用具レンタル商品の洗浄・消毒・メンテナンスを担う「メディカレント東京」を新設いたしました。同施設では、メディカルサービス事業の本部機能を統合させ、利益拡大と環境負荷軽減を目的とした「レンタルに適した商品開発」や「レンタル商品の有効活用」などに重点的に取り組んでおり、「レンタル商品の有効活用」については、廃却数の大幅削減や新規レンタル投下の抑制、メンテナンス効率が向上する治具の開発など、成果が導出されております。

病院・福祉施設向け販売に関しましては、世界的な半導体不足、資材高騰などの影響が少なからずあったものの、看護・介護現場の業務省力化に資する機能を有するベッドへの入替需要が顕著であり、機能ベッド及び付属品を中心とした販売に注力いたしました。

以上の結果、メディカルサービス事業の売上高は27,542百万円（前年同四半期比10.6%増）、経常利益は2,267百万円（前年同四半期比2.1%増）となりました。

② インテリア健康事業

インテリア健康事業においては、時代のニーズに対応した除菌機能標準搭載・エコマーク認定のマットレスや健康志向の高まりを捉えたベッド型マッサージ器、寝心地以上の豊かさをご提案する電動ベッドシリーズなどが、売上及び利益率の向上に寄与いたしました。

また、廃棄時にマットレスの解体を容易にするマットレスやアブラヤシの廃材を活用したベッドフレームを自社展示場に設置するなど、ESG経営の推進に継続して取り組んでおります。このような業界に先駆けた取り組みが評価され、日本環境協会が主催する「エコマークアワード2022」において最優秀賞を受賞いたしました。さらに、使用済みの自社マットレスの廃棄において、廃棄物の減量と適正な処理を促し、循環型社会への取り組みを推進するため、環境大臣が認定する「広域認定制度」を申請し、2022年11月に認可されました。

近年、国内家具店が減少する中、当社グループの商品をお見せする場を拡大するためのショールーム展開では、消費者の多様なニーズに応えるべく、モダンスタイルを基調としたカジュアルなショールーム「なんばショールーム」を2022年4月に新設、併せて旗艦ショールームである「赤坂ショールーム」や「大阪ショールーム」をはじめ、「旭川ショールーム」、「札幌ショールーム」などの既存ショールームをリニューアルいたしました。

以上の結果、インテリア健康事業の売上高は、14,878百万円（前年同四半期比3.5%増）、経常利益は970百万円（前年同四半期比14.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という。）と比較して491百万円減少し63,806百万円となりました。流動資産は前期末と比較して493百万円増加し31,653百万円となりました。主な要因として、増加については、有価証券2,400百万円、棚卸資産613百万円などであり、減少については、現金及び預金2,295百万円、受取手形、売掛金及び契約資産（電子記録債権を含む）315百万円などがあります。固定資産は前期末と比較して1,011百万円減少し32,116百万円となりました。主な要因は、有形、無形固定資産の取得及び償却によるものであります。

(負債)

負債は、前期末と比較して542百万円減少し26,215百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金（電子記録債務を含む）134百万円、未払法人税等137百万円、リース債務（長期を含む）295百万円などの減少によるものであります。

(純資産)

純資産は、前期末と比較して50百万円増加し37,591百万円となりました。主な要因として、増加については、親会社株主に帰属する四半期純利益2,026百万円などであり、減少については、剰余金の配当1,232百万円、自己株式の取得381百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前期末の58.3%から58.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日付「2022年3月期決算短信」にて公表した業績予想につきましては変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,778	7,482
受取手形、売掛金及び契約資産	9,191	8,666
電子記録債権	990	1,200
有価証券	1,500	3,900
商品及び製品	5,857	6,217
仕掛品	422	415
原材料及び貯蔵品	2,122	2,383
その他	1,349	1,423
貸倒引当金	△53	△36
流動資産合計	31,159	31,653
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,197	7,197
その他(純額)	14,818	14,351
有形固定資産合計	22,016	21,548
無形固定資産		
のれん	1,167	989
その他	1,256	1,307
無形固定資産合計	2,423	2,296
投資その他の資産	8,688	8,271
固定資産合計	33,128	32,116
繰延資産	10	36
資産合計	64,298	63,806
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,672	2,576
電子記録債務	2,176	2,139
短期借入金	3,975	2,700
1年内返済予定の長期借入金	222	200
1年内償還予定の社債	2,100	600
未払法人税等	485	347
賞与引当金	1,423	791
その他の引当金	118	12
資産除去債務	72	—
その他	5,925	6,937
流動負債合計	19,174	16,304
固定負債		
社債	300	1,500
長期借入金	2,140	3,500
引当金	195	216
退職給付に係る負債	425	488
資産除去債務	366	406
その他	4,155	3,799
固定負債合計	7,583	9,910
負債合計	26,757	26,215

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,000	3,000
資本剰余金	1	1
利益剰余金	37,236	38,031
自己株式	△4,560	△4,941
株主資本合計	35,677	36,090
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△34	△21
繰延ヘッジ損益	53	8
退職給付に係る調整累計額	1,843	1,513
その他の包括利益累計額合計	1,862	1,500
純資産合計	37,540	37,591
負債純資産合計	64,298	63,806

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	39,602	42,758
売上原価	18,091	19,729
売上総利益	21,511	23,028
販売費及び一般管理費	18,515	19,827
営業利益	2,995	3,201
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	11	13
その他	128	131
営業外収益合計	143	149
営業外費用		
支払利息	51	69
持分法による投資損失	2	3
その他	56	65
営業外費用合計	110	137
経常利益	3,028	3,212
特別利益		
固定資産売却益	146	1
投資有価証券売却益	10	—
関係会社出資金売却益	—	16
受取保険金	—	148
特別利益合計	156	167
特別損失		
固定資産売却損	—	1
固定資産除却損	4	20
投資有価証券評価損	—	56
関係会社出資金評価損	—	9
減損損失	10	—
特別損失合計	14	87
税金等調整前四半期純利益	3,170	3,292
法人税、住民税及び事業税	618	878
法人税等調整額	512	386
法人税等合計	1,130	1,265
四半期純利益	2,039	2,026
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,039	2,026

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	2,039	2,026
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	12
繰延ヘッジ損益	△17	△44
退職給付に係る調整額	△317	△330
その他の包括利益合計	△348	△362
四半期包括利益	1,691	1,664
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,691	1,664
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年5月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式420,000株を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が380百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、自己株式が4,941百万円となっております。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	メディカル サービス	インテリア 健康	計				
売上高							
外部顧客への売上高	24,899	14,367	39,266	335	39,602	—	39,602
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	203	208	5	213	△213	—
計	24,904	14,571	39,475	340	39,816	△213	39,602
セグメント利益又は損失 (△)	2,220	844	3,065	3	3,068	△39	3,028

当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	メディカル サービス	インテリア 健康	計				
売上高							
外部顧客への売上高	27,542	14,878	42,420	337	42,758	—	42,758
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	220	222	5	228	△228	—
計	27,544	15,098	42,643	343	42,986	△228	42,758
セグメント利益又は損失 (△)	2,267	970	3,238	2	3,240	△27	3,212

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
セグメント利益又は損失 (△)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	908	1,072
全社収益及び費用※	△947	△1,100
合計	△39	△27

※ 全社収益及び費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社に係る収益及び費用であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 前第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年12月31日）
 （固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	メディカル サービス	インテリア 健康	計				
減損損失	—	10	10	—	10	—	10
計	—	10	10	—	10	—	10

（のれんの金額の重要な変動）

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるフランスベッド株式会社を通じて株式会社ホームケアサービス山口の全株式を取得し、当該会社を連結の範囲に含めたことにより、「メディカルサービス」セグメントにおいて、のれんが879百万円発生しております。

なお、当該のれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的な会計処理によって算定された金額であります。

当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。